NEWS LETTER

甲南大学 ビジネス・イノベーション研究所

# インバウンドツーリズムは関西の成長牽引産業となるか

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所兼任研究員（甲南大学経済学部教授）　稲田　義久

関西経済が長期に低迷していることの原因について、筆者たちは2014年版『関西経済白書』（アジア太平洋研究所）で徹底分析した。関西経済の地位低下の兆しは、つとに大阪万博のころから見られるようになり、決定的になったのはバブル崩壊後のこの20年である。経済成長率を決める要因としては、資本や労働の伸びに加えて全要素生産性の伸び（技術進歩率）が重要となる。筆者たちの推計によれば、バブル崩壊後の関西の技術進歩率は東京圏や中部圏と比較してほぼゼロのようである。

技術進歩率の点からは関西経済の将来について悲観的にならざるを得ないが、分析で明らかになったのは、関西経済にはまだ労働供給の面で経済成長率に伸び代があることである。それは女性労働の就業率の低さである。あまり注目されてこなかったが、女性の就業率を見ると、奈良県（39.0%）、大阪府（41.1%）、兵庫県（42.0%）が全国ワーストスリーを占めている。筆者たちのシミュレーションによれば、これに和歌山県（42.6%）を加えた４府県の女性の就業率が全国平均（44.7%）に達すれば、関西の労働力人口が26万人増加し、関西の実質域内総生産（GRP）が1.5兆円、率にして1.8%増加することがわかった。埋もれている関西の潜在的な資源をうまく活用することが、関西活性化のひとつの処方箋であることがわかる。

さて関西でイノベーションが加速し、関西の将来を牽引する産業は何かといえば、インバウンドツーリズムと健康・医療産業の２つが代表的と考えている。ここではインバウンドツーリズムの可能性を考えてみよう。筆者は、2013-14年の訪日外国人消費を推計し、関西各府県に及ぼす経済効果を比較分析した（『訪日外国人消費の経済効果～関西各府県への影響の比較：2013-14年～』、アジア太平洋研究所、2015.7.22）。日本政府観光局によれば訪日外国客数は、13年約1,036万人、14年約1,341万人と年間で約30%の増加を示した。なかでも、中国の伸びは最も高く増加率は83%に達している。低成長の数字が常態の日本経済において、訪日中国人観光者に期待を抱かせる数値といえよう。

関西における効果を要約すると、(1)訪日外国人消費は13年の関西GRPを0.33%程度、14年のGRPを0.46%程度押し上げた。(2)雇用については、13年は0.47%程度、14年は0.66%程度の押し上げ効果となっている。このことから、(3)年々関西におけるインバウンドツーリズムの影響力が高まっており、関西の成長牽引産業と期待される所以である。

13年について府県別に見ると、京都府の訪日外国人消費はGRPを0.72%押し上げている。一方、奈良県の場合は、0.14%と寄与は関西で最も低い。訪日外国人消費のGRP引き上げ寄与を降順に並べると、京都府、大阪府、和歌山県、兵庫県、滋賀県、奈良県となっている。GRPの水準比較（大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県）とは異なる姿である。結果から、和歌山県は観光資源をうまく使いGRP引き上げているが、同じような経済規模の奈良県は観光資源をうまく使いきっていない姿が浮かび上がってくる。14年について比較すると、GRPへの寄与の順は京都府、大阪府、和歌山県、滋賀県、兵庫県、奈良県となっており、注目すべきは兵庫県と滋賀県の順位が入れ替わったことである。14年、滋賀県で訪日外国人数の増加に寄与したのは、台湾である。積極的な誘致活動が成功したものと思われる。兵庫県は神戸市を中心としてもともとツーリズムではブランド力を持っていたが、最近は相対的にブランド力を失っているといわれている証左がこの結果に現れていると思われる。

これまでインバウンドツーリズムは、円安の持続、入国ビザ条件の順次緩和、関西国際空港におけるLCCの増便等の影響を受け、この数年急速に伸びてきたが、今後も高成長トレンドが続くと想定してよいのであろうか。分析で分かったことは、関西への訪日外国人の流れは、これまでの大阪、京都から周辺の滋賀、和歌山、奈良へと広がったことであった。結果、大阪や京都のホテル稼働率は高水準で推移し、宿泊単価も上昇している。14年は既存の観光都市の宿泊インフラの供給制約が目立った年ともいえよう。この供給制約に対して具体的な対策を打たない場合、宿泊コストが高騰しやがて観光客に敬遠されるであろう。宿泊設備はホテルだけではなく客層のニーズに合った設備を整備供給することが緊急課題であろう。関西圏または広域関西圏が一体となって観光客の流れをスムーズな好循環にすることも重要である。ブームを確実なものとするためにも、各府県のハード・ソフト面での工夫が必要である。このような努力により、全体としてインバウンドツーリズムの底上げが期待できるといえよう。

2015 vol. 36

## 甲南大学経済学部、ビジネス・イノベーション研究所 共催／経済学会 後援 国際交流研究会
## 2015年5月12日　10:50～12:00

# A Foresight Methodology on Technology Development and Business Innovation

台湾　国立聯合大学管理学院助理教授　陳　宇佐　氏

Konan University's Faculty of Economics and Institute of Business Innovation, with the support of the Economic Society of Konan University, cosponsored an international study meeting held on May 12th, 2015. This international study meeting invited Dr Yu-Tso Chen, an assistant professor with the College of Management, National United University in Miaoli, Taiwan as the lecturer. Dr Chen delivered a lecture entitled "A Foresight Methodology on Technology Development and Business Innovation" in Conference Room 5 at the Okamoto Campus for about half an hour.

After a self-introduction, Dr Chen started this lecture with a conceptualization of foresight by providing concrete illustrations, including Japan's Centennial Forecasting in 1901 by MRI and Kodak's failure due to their misjudgment in their forecasting result based on the associated trends in the photographic industry, especially the transition timing from film to digital photo. Besides, he presented a schema of foresight perspectives; accordingly, Dr Chen argued that the goal of practicing foresight is to prevent surprise. He emphasized the following four points; (1) foresight is more about the present than the future, (2) foresight is about managing change and uncertainty, (3) foresight maintains strategy, (4) foresight increases business focus and relieves information overload.

Next, Dr Chen focused on the importance of Smarter Technology and Intelligent Business that plays a critical role in overcoming the emerging threats in the fields like housing, sanitation, transportation, healthcare, and public safety to natural environment and human ecosystems. He explained that the applications of foresight-directed ICT (information and communication technology)-enabled intelligence could be capable of upgrading and innovating services and systems for the overall quality of life and business they support, thereby finally sustaining the ecosystems.

Dr Chen then referred to some famous foresight methodologies, for example the SRI (Stanford Research Institute) scenario analysis which consists of ten steps. He also took IBM's systematic innovation approaches as an example of strategy planning covering short-, mid-, and long-term foresights. With exhibiting procedures of strategic technology foresight and their deliverables, Dr Chen underlined that the main concept of strategy planning for the futures is to integrate the implications between forecasting and backcastig.

Subsequently, Dr Chen provides three cases, (1) Industrial Technology Foresight on Taiwan Hydrogen Economy, an ITRI project, 2012; (2)Generalize Key Requirements for Designing IT-based systems for Green, 2013; and (3)Improve the Treatment of School Bullying through an Information System Innovated Business Model, 2013, to demonstrate the procedures and outputs of using the foresight methodology.

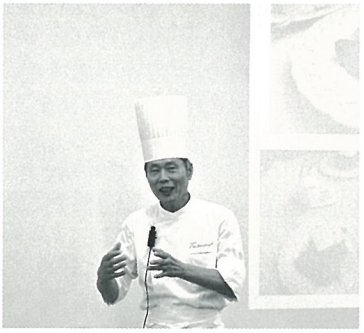
Based on his research findings, Dr Chen looked for any possible academic collaboration in terms of technology foresight and business innovation between the Konan University and the NUU. He stressed the importance of cooperation among universities, students/parents, government, and businesses for the promotion of ICT-based foresight investigations.　（概要作成　経済学部・ＢＩ研究所兼任研究員　岡田元浩）

## 2015年度　ビジネス・イノベーション研究所　公開講座
## 2015年7月19日・8月2日　11:00～11:40
# 神戸スイーツの魅力を語る

御影髙杉　取締役　髙杉　良和　氏
ＢＩ研究所所長、経営学部教授　西村　順二　氏

本学創立100周年を迎えるにあたって創立時より神戸の地で研究拠点として発展してきた甲南大学の知的資源を地域還元すると共に地域と連携し、神戸地域の情報発信と活性化・発展を目指して、「甲南プレミアプロジェクト－神戸連携：神戸スイーツの研究活性化拠点プロジェクト」が動き出しています。本学創設者平生釟三郎らにより甲南幼稚園が発足した1911年、そして1919年には甲南学園の起源である甲南中学校が生まれています。この時期は神戸を代表するユーハイム、ゴンチャロフ、モロゾフ、神戸ベル（東京木村屋）などが神戸の地に誕生した頃と重なります。当時、港町神戸が洋風化の拠点であったことと、第一次世界大戦・ロシア革命・関東大震災等が起こり、戦争・政争・震災等がきっかけとなりスイーツに関する人材などが神戸へ移り住んだことを一つの契機として神戸の地に洋菓子・スイーツ文化が育まれてきました。甲南大学もまたその時期に有為な人材を輩出すべく発展してきました。今回の公開講座は、同時期に神戸の街の発展を見てきた研究機関として、神戸の特徴である「神戸スイーツ」の魅力を伝えるべく開催しました。

本学の卒業式限定スイーツや、今回の公開講座に向けての限定スイーツ（非売品）製作でご協力いただきました御影髙杉。今や神戸を代表し、そして神戸をこよなく愛されている髙杉良和シェフに洋菓子・神戸に対するこだわりなどをお話しいただきました。以下はその講演の一部です。



「職人ということで、本日は自分の想いを表現させていただきたいと思っております。ケーキ屋さんって正直言って、材料原価高騰を含めると、本当に薄利な企業です。ただ、夢としては薄利ではないということは言えます。厳しいからこそ作り手の方にその想いがなかったら、お客さんに伝わらないんじゃないかなって思います。そういった部分で、私はスイーツ・食べることに関しては、人一倍貪欲だと思います。

私は昭和48年に大阪のシティホテルに入りました。衣食住の食で始まりました。食は世界共通みな笑顔が出ます。それで選びました。ホテルというのは、色々な外国の方がみえます。そういう人たちといろんな異文化を共有できると考え、選びました。フランス料理から始まっていますので、食材の命を絶つことへの責任・感謝を強く感じています。例えば、イチゴは同じ銘柄でも１粒ずつみんな違います。じゃあ、このイチゴどのように処理したらおいしくなるんだろうという想いで切ることにこだわっています。自分のお菓子は自分が表現すべきです。ということは、食材をどのように見てるんだっていうことなんですね。食材をどのように生かしたいかっていうことが、菓子職人としての職人という肩書なんだと思います。神戸っていうのはそういう意味では、伝統文化を非常に大事にされた土壌があると思います。三宮ではなく、この御影という静かな地で根を張りたかったのです。お菓子屋さんとしては贅沢な空間の考え方です。というのは、阪神・淡路大震災の時ですから、自分のお家の応接間として空間を使っていただき、そこにスイーツがあれば、なお一層気持ちが晴れるんじゃないかなと考えました。デザート皿にお菓子を盛って色々なデコレーションをほどこしたのは、全国で初めてのはずです。お菓子ってこんなに優雅に食べられるものだということを提案したかったんです。フランス人も納得できるお菓子を日本で広めたい。でもその土壌が、御影であり、神戸なんです。だから、私のところではシュークリームは出してません。プリンもやらない、ロールケーキも。話題の物は一切やりません。本当の基礎が出来たお菓子、上っ面の創作菓子でない揺るがないお菓子を作るべきだと思っています。基礎のあるしっかりとしたお菓子というのが神戸の地場産業の一つだと思います。」

ルセットをオープンにしても全く同じものはつくれない、シェフの首尾一貫したこだわりにより違ってくるということが分かりました。また、Webで見た情報だけではなく、自分で感じ、考えることの大切さ、真摯に立ち向かっていく姿が大事であることを改めて教えていただけた貴重な時間でした。

（概要作成　西村　順二）

## 『先端のマーケティング』発刊向けての研究会
## 2015年8月2日　13:30～18:00

８月２日に来春同文舘より発刊予定の『先端のマーケティング（仮題）』の執筆予定者の発表会が行われた。本書の狙いは、これから発展していくマーケティングのトレンドを見据え、ビジネスモデルがどのように進化するか、またプラットフォームやコンピューティングの進化がマーケティングをどのように変えるのかを明らかにすることにある。

情報技術革新によってクローズドシステムからオープンシステムへの移行、参加型カルチャが創出されている。ビッグデータの活用、地域社会への参加による事業形態、企業間関係の新しいガバナンス、新しい組織形態や情報産業のように、情報技術の革新によりイノベーションを生み出す機運にある。イノベーションは単なる技術革新ではなく、それによって新しいパラダイムシフトが生まれ、人々の交流や相互作用を通じて、考え方や行動が大きく変わることである。執筆者はこのような視点を共有し、それぞれの専門分野から発表、討議を行った。

その内容は、地域小売業（西村順二、甲南大学教授）、地域活性化（辻本法子、桃山学院大学教授）、サプライチェーン組織（玄野博行、大阪国際大学准教授）、音楽産業（穐原寿織、帝塚山大学専任講師）、電子書籍市場（中山雄司、大阪府立大学教授）、ツーサイドプラットフォーム（三上和彦、甲南大学教授）、ビッグデータのマーケティング（石垣智徳、南山大学ビジネス研究科教授）、ソーシャルメディアのビジネスモデル（中田善啓、甲南大学教授）であった。

## 2015年度ビジネス・イノベーション研究所
## 研究会・公開講座のお知らせ

### 2015年度公開講座

テーマ　：　７人のパティシエが描く神戸スイーツ
講　師　：　ORIGINE KOBE　（オリジン　コウベ）
「パティスリー　モンプリュ」 林　周平　オーナーシェフ、「イグレックプリュス＋大丸神戸店」多田　征二　製菓部長、「ラヴニュー」平井　茂雄　エグゼクティブシェフシェフオーナー、「MOTOMACHI CAKE kobe 1946」 大西　達也　オーナーシェフ、「パティスリー　ラトリエ　ドゥ　マッサ」上田　真嗣　オーナーシェフ、「パティスリー　アグリコール」奥田　義勝　オーナーシェフ、「パティスリー　アキト」田中　哲人　オーナーシェフ
甲南大学ビジネス・イノベーション研究所長、経営学部教授　西村順二
日　時　：　2015年10月31日（土）　14：00～16：00
場　所　：　甲南大学　岡本キャンパス　カフェパンセ（５号館１階）
資料代等　：　1,000円

### 経済史・政治外交史研究会シンポジウム

テーマ　：　戦間期における日本の対アジア・太平洋関係
講　師　：　経済史および政治外交史研究者９名
日　時　：　2015年11月15日（日）　10：00～18：00
場　所　：　甲南大学　岡本キャンパス第５・６会議室（９号館４階）
参加費　：　無料

### 第27回ＢＩ研究会

テーマ　：　スイーツなマーケティング論　－進化を続ける老舗企業・モロゾフ－
講　師　：　モロゾフ株式会社　代表取締役社長　山口　信二 氏
甲南大学ビジネス・イノベーション研究所所長、経営学部教授　西村　順二
日　時　：　2015年11月26日（木）　15：30～18：00
場　所　：　甲南大学　ネットワークキャンパス東京
参加費　：　1,000円

詳細につきましては、下記ビジネス・イノベーション研究所ホームページにてお知らせいたしますので、ご参加いただきますよう、よろしくお願いします。

甲南大学
ビジネス・イノベーション研究所
〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.078-435-2754　FAX.078-435-2324
E-mail:bi@center.konan-u.ac.jp
http://bi.bus.konan-u.ac.jp

発行日／2015年（H.27）10月１日発行